

# しち てん はっ き 七 転 八 起

校訓：自主・協同・創造

学校通信 NO. 16  
令和5年 2月 24日

## 「感謝の気持ち」を伝えよう！

3月になります。1年間の締めくくりの月です。3年生にとっては、義務教育の締めくくりとなる大切な大きな節目です。

節目を迎えるにあたり、この1年間をじっくりと振り返ってみてください。コロナ禍の状況下でも「自分のできる精一杯の努力をした」「創造力と自主性・協働性を発揮した」学校生活でした。たくさんのお出来事が思い返されるのではないですか。そして、それらの出来事のすべてで、自分を支えてくれたり、一緒に喜びや悔しさを分かちあったり、やさしく見守ってくれたりした人が必ずいたと思います。『その人たちがいたから、その人たちのおかげで、今の自分がある。』そう思いませんか。

人は日常を『あたりまえ』と思いがちです。しかし、コロナ禍の状況下で、『あたりまえ』がどんなに『ありがたい』ことかを身をもって感じてきたみなさんですから、『ありがたい』と思えるのではないのでしょうか。わたしたちの身の回りの『あたりまえ』に居てくれる人たちは、とても『ありがたい』存在です。

この節目の機会に、自分を支えてくれている人に、心から「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてください。そして、力強く新たなスタートをきってほしいと願っています。

この節目の機会に、自分を支えてくれている人に、心から「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えてください。そして、力強く新たなスタートをきってほしいと願っています。

## 「貪欲に学んで」成長してほしい！

日本を代表する伝統芸能、人形浄瑠璃文楽座の人形遣いで、人間国宝の桐竹勘十郎さんが、五十年以上にわたって積み重ねてきた若き日の学びや師匠の教えを「教えられたものは身につかない」と語ったことについて紹介します。

文楽の修業は、基本的には口では教えてはくれません。「何が足りないのか」「何をどう使えばよいのか」具体的な事は何も教えてはくれません。これは要するに「答えは自分で考えろ」「舞台に出たら誰も助けてくれない」ということを暗に含んでいるのです。それに普段から「言われ癖」がつくと、言われなければ何もできない人間になってしまいます。文楽座で学ぶということは、良い手本が目の前にたくさんあるのだから、自分で考えて、技や知識を自分のものにしていく。そういう学び方なのです。

この学び方は、文楽に限らず、どの分野にも当てはまる考え方であり、求められる力なのです。みなさんも、自分に必要なことは、自分で考えて、他の人の良いところを盗んで、自分に合うようにアレンジして取り入れることです。貪欲に学んで、どんどん成長して行って欲しいと願っています。



校長 高森 伸彦

## 1年生のスキー実習が行われました。

1年生は、2月7日(火)から2泊3日、ハチ高原でスキー実習に行ってきました。

集団生活を通じて、自分と集団の在り方を学ぶとともに、相互の親睦が深められた実習となりました。また、大自然の美しさや厳しさを体験しながら、基本的なスキー技術も体得してきました。

1日目は、スキーが初めての人にとっては、不安でいっぱいだったのでしょうか、恐る恐る実習に取り組んでいましたが、2日目になると勇気を出して果敢に挑戦する姿が頼もしく感じられました。最終日には、楽しくてもっと高いところから挑戦したいという声が聞こえるほど上達していました。

3日間、お世話になったスタッフのみなさんにも、しっかりと感謝を伝えられるようになってきているところにも、成長が感じられました。

